

「ストレス」と「癒し」の研究会～第6回講演会の内容～

日時:平成24年3月30日(金)17:45～19:30

場所:病院棟4F 臨床講堂2

演題1: 『苦しみと緩和の臨床人間学』

演者: 佐藤 泰子先生(京都大学大学院医学研究科 人間・環境学)

講演要旨:

人はなぜ苦しむのか、そして、そこから解放されていく手立てとはなにか、苦しんでいる人を支えるにはどのように寄り添ったらいいのか、これらの問いに答えるために、苦しみからの解放のプロセスを提示し、様々な状況下での援助者の立ち位置を判断できるモデルを示すことが講演のねらいである。

誰でも、これまでの人生のなかで苦しみに出会う度に自ら小器用な手立てを講じて生き抜いてきた。そのような艱難辛苦を乗り越える力の構造を詳解する。それにはまず「人はなぜ苦しいのか」を端的に表す枠組みが必要となる。そこであらゆる苦しみを構造的に理解できる「苦しみと緩和の構造」モデルを提案し、解放のストラテジー（方策）の根拠を説明する。また、「なぜ、人は、語るのか」の疑問に答えながら、苦しい人の語りを聴くことの本当の意味を明らかにする。

演者のプロフィール:

1960 年生まれ、香川県出身。京都大学大学院修了。京都大学博士（人間・環境学）。大学院在学中に出産、子育てを経験。博士課程修了後、主に医療系学生への教育と講演活動を行っている。講演では主に「聴くこと、話すこと」をテーマにしている。人間の苦しみと言語の関係を理解することによって、誰でも素晴らしい聴き手になれると説く。現在、京都大学非常勤講師。著書に「苦しみと緩和の臨床人間学---聴くこと、語ることの本当の意味---」（晃洋書房）。

演題2: 『癒しの環境とは―第12回和歌山大会開催に向けて』

演者: 高柳 和江先生(癒しの環境研究会世話人代表)

講演要旨:

一歩入っただけでほっとして、病気が治りそうな気がしてその中にいるだけで、どんどん元気になる気がして、実際に元気になる。これが癒しの環境です。病院は癒しの環境の中にあるべきです。環境にはハードとソフト、そして、その間をつなぐものがあります。癒しの環境研究会は 65 回の研究会を重ね、全国大会は、本年で、第 12 回目になります。笑い療法士も癒しの環境研究会の中で育てており、医師、看護師、他一般の方もふくめて、2月現在、600人の笑い療法士が癒しの環境研究会が認定されています。

おかげさまで、日本の医療の中に、「癒し」という言葉が、当たり前になり、「笑い」が

病気の自己治癒力を高めるのに有効であるという概念が日本の医療の中で広まってきました。

今までの大会は、多い時は 2000 人の参加者を集めて行ってきました。全国の会員が集まるのは 100 人程度ですが、地元の人々の「癒しの環境」にたいする意識を高めてもらい、発表し、会員になっていただきたいと思っています。懇親会は、仮装パーティで、もりあがります。地元の方々はじめ、全国から広くご参加を募って、いただくことをぜひ、よろしくお願ひします。

演者のプロフィール:

高柳和江先生は、神戸大学医学部卒、医学博士。小児外科医として、クウェートで 10 年間、新生児外科年間 250 例、小児外科年間 6-7000 例の手術を手掛けた。亀田総合病院 病院長補佐、アイオワ大学大学院・病院長つき研究員、日本医科大学医療管理学准教授、東京医療保健大学教授などを務める傍ら、癒しの環境研究会を 2004 年に立ち上げ、医療環境の向上に努めてきた。放送大学で「かしこくなる患者学」講座は、視聴率第 2 位。MDRT で講演の上手な講師 2000 人の一人に選ばれている。

連絡先:「ストレス」と「癒し」の研究会 第二解剖 仙波 (内線)5155

*** 本講演会は和歌山県立医科大学医学振興会記念助成事業の助成を受けています。**